

淀川河川敷慰霊碑

1945年終戦6月7日

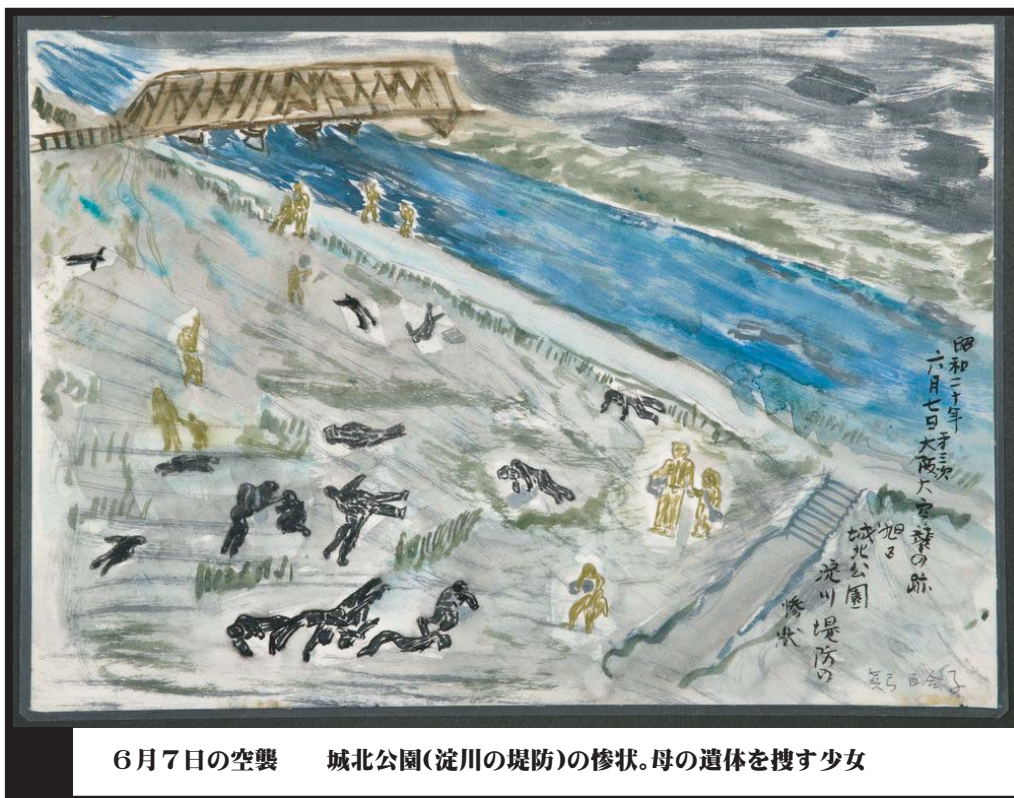
B29 250機以上 B24 護衛機を引きつれ小型爆弾・油脂焼夷弾で空爆し、死者2800人を出した。私は母校上田台地にあった6月1日の空襲で、授業がなく在宅して居り空襲と共にこの河川敷(指定の避難場所になっていた)に逃げ、この付近で米軍の容赦ない機銃掃射を受けた。足にその時の傷跡が60年たった今も残っている。今は薄く痕跡をのこすのみであるが…。空襲後あちこちに散らばった遺体(身元不詳 引き取り手なし)は数ヶ所で野焼きされ茶毘に付されて遺骨はその土中に埋められた。

これを哀れんで地元の篤志家、東浦栄二郎氏(故人)が遺骨を1ヶ所に集め庭石に千人塚を刻んで(実際は1000体よりもずっと多い)おかれたときいている。

現在は由来記と共に黒御影を台座にして千人塚があり、毎年6月7日に慰霊祭が行われている。今年の日曜日であったが菖蒲園の喧噪(けんそう)よそに例年より多くの人に参加され、無惨な死をとげた人々の冥福を心より祈ったことであった。<竹中靖子>

千人つか

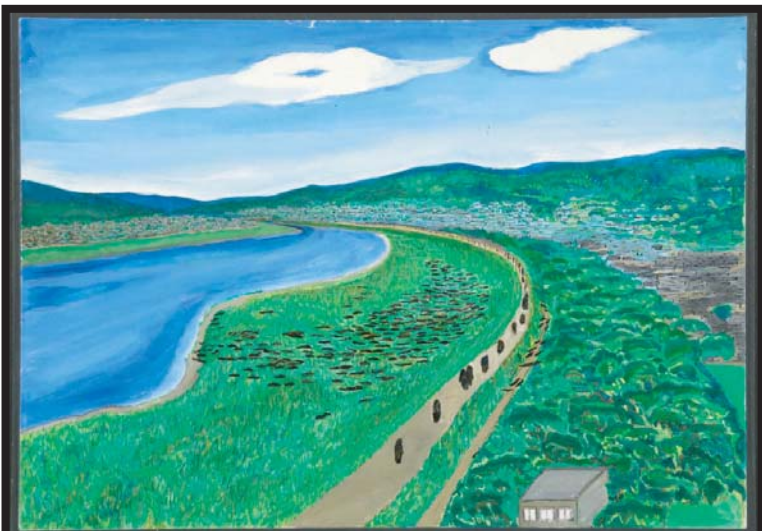
ここに一枚の絵がある。



6月7日の空襲 城北公園(淀川の堤防)の惨状。母の遺体を捜す少女

■真弓百合子さんの絵
(資料:ピースおおさか)

これが昭和20年6月7日の大空襲の淀川河川敷の阿鼻叫喚(あびきょうかん)地獄図を思はせる様相のあと、この世の末と思はせる絵である。



6月7日の空襲 沿北淀川河川敷での死体処理の前の風景

■栗林幸子さんの絵(資料:ピースおおさか)



犠牲者が次々に寝屋川方面に逃げてくる光景

■岡田加寿美さんの絵(資料:ピースおおさか)

この日は朝から抜けるような青空であった。夏の空は一転暗黒の雲が垂れこみまわりは、えもいわれない静寂がつつんだ。



淀川北岸堤防上で焼死体にガソリンをかけて焼いていた

■阪本馨さんの絵(資料:ピースおおさか)

その後土地の篤志家東浦栄二郎氏による遺体の処置（あちこちに散乱している死体を何方所かに集めてガソリンをまき遺体を焼却）その霊をなぐさめるため千人塚が建立され、毎年慰霊法要が連綿とつづいている。供養については、豊田貴子さんがくわしくお書きになっているのでここでは割愛させていただきます。

この絵をみて我々がしてきた戦争とは何か？

人間が人間ではなくなるこの狂気、しかもこの絵は遠い戦場でもなく、つい身近近くの場所であったのである。

しかしまぎれもないこの現実を記憶にとどめている人が一体どれだけいるのだろうか。

付記

当時は戦争に関する報道は、写真はおろか空襲に関する現状の様子等はきびしく管制されており、只人々の個々の記憶によるものだけである。〈竹中靖子〉